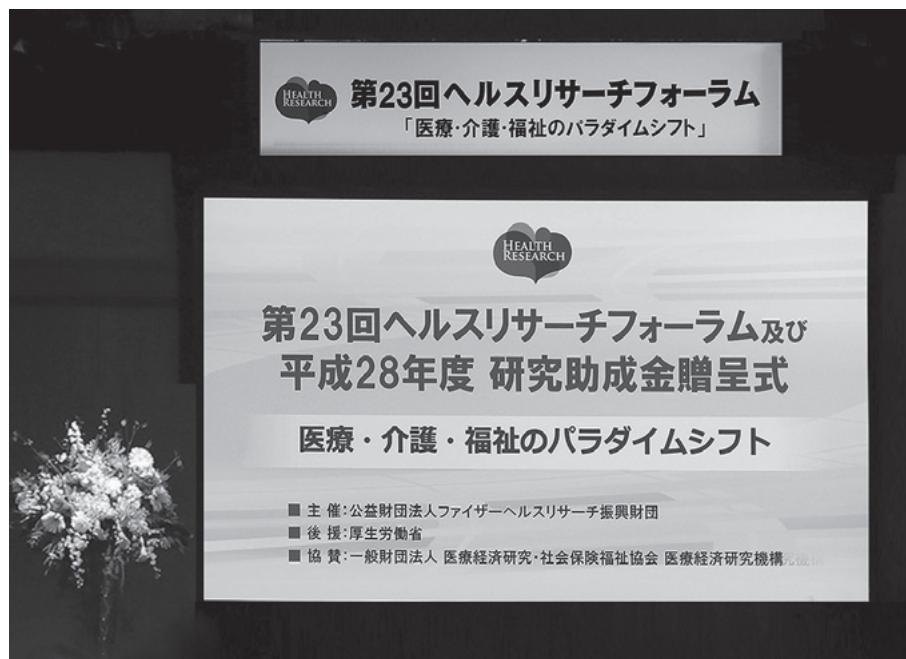


挨拶



来賓挨拶



上田 真由美

一般財団法人
医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構 研究主幹



梅田 一郎

ファイザー株式会社
代表取締役社長



島谷 克義

公益財団法人
ファイザーヘルスリサーチ振興財団
理事長

主催者挨拶

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長

島谷 克義

本日は、第23回ヘルスリサーチフォーラム及び平成28年度研究助成金贈呈式にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃は、当財団の事業活動に多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本日の会では、厚生労働省大臣官房厚生科学課長 佐原康之様、医療経済研究機構研究主幹 上田真由美様、ファイザー株式会社代表取締役社長 梅田一郎様より、ご挨拶をいただくことになっております。どうぞ、よろしくお願いします。

本日のプログラムでは、ヘルスリサーチフォーラムで34題の研究発表があります。平成25年度に助成を受けた1演題と、平成26年度に助成を受けた30演題、一般からご応募いただいた3演題です。

そのうちの13演題が既に午前中のポスターセッションで発表され、活発な議論がなされました。午後は、このホールで21演題の研究発表が行われる予定ですが、引き続き、熱心な討議が交されるものと期待をしております。

フォーラムに引き続きまして、平成28年度の研究助成受賞者の発表、並びに、研究助成金贈呈式が行われます。

選考の詳しい経緯と結果は委員長の永井先生から後ほどご説明をいただきますが、本年も160件という、大変多くのご応募をいただきました。ご応募いただいた皆さまには、厚く御礼を申し上げます。

この中から、厳しい選考を経て、39件の研究が助成対象として採択されました。今年も競争率が4.1倍という、大変厳しいものでありました。採択された皆さまがたには、心よりお喜びを申し上げたいと思います。

なお、助成金の規模ですが、平成25年度は4,436万円でしたが、26、27年度がそれぞれ5,000万円、そして今年度は5,628万円と、少しずつ増加をしております。これにより、平成4年に当財団が発足して以来、合計で803件の研究が採択され、助成総額は18億6,030万円になりました。これも、ひとえに、主たる出損企業であるファイザー株式会社、並びに関係団体や個人の皆さまのご尽力のたまものと深く感謝しております。

さて、今年度のフォーラムでは、医療・介護・福祉のパラダイムシフトをテーマとしております。少子高齢化が急速に進む日本では、社会保障制度の大幅な見直しが喫緊の課題となっています。医療費の削減とより良いアウトカムを、どのようにして同時に達成するのか。この課題を考えるモデルとして、平成21年の医療法人夕張希望の杜のご研究がございます。平成19年に、高齢化が40パーセントを超え、財政破綻をした夕張では、

救急医療体制がなくなり、大幅な病床数の削減を余儀なくされた状況の中で、慢性疾患の予防と在宅医療に特化した、支える医療を展開しました。その中で、本財団の助成を受けた研究である要介護高齢者に対するワクチンの接種と積極的な口腔ケアの併用が肺炎の発症者数および死亡者数を減少に導くことを実証し、限られた医療資源の中で今後の進むべき方向に確信を持つことができた結論づけられております。

世界では、ビッグデータや人工知能など、グローバルアプローチが進む一方で、内向き、保護主義といった全く異なるベクトルも動き出しているようです。日本もこの流れに大きな影響を受けることは間違いありません。科学の進歩はもちろん、政治、経済の変化と密接に関連した医療・介護・福祉のパラダイムシフトをどのように進めていくかは、ますます重要な、そして複雑なテーマとなっていくと思われまます。

本日のヘルスリサーチフォーラムが、その課題を考える一つのきっかけになれば幸いです。ご参加の皆さまの積極的なご討議をお願いしたいと存じます。

最後に、本財団の今後の活動に対する皆さまの更なるご支援とご協力をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。